

世界が注目する鶴見川

鶴見川通信 第2号

海外からも 視察が来ています

神奈川県民にとって身近な存在である鶴見川ですが、実は世界からも注目されているのをご存じでしたか？ 今年の9月には、洪水被害が生じたフィリピンの公共事業を担当する大臣一行が、治水対策に取り組むための参考事例として、鶴見川流域センターと鶴見川多目的遊水地、流域内最大の防災調整池である霧が丘調整池などを視察されました。

鶴見川が世界の注目を集めている理由は、総合治水対策を進めるための「鶴見川流域水マスタープラン」に代表される「市民参加型の治水事業」です。かつて「暴れ川」として洪水



▲平常時はテニスコートとして利用

霧が丘調整池(横浜市)

がおきやすいことで知られた鶴見川では、国と自治体など流域の企業や住民らが一体となり、「治水対策」を進めてきました。

約4300ヶ所ある 「防災調整池」

その中でもユニークなのが、約4300ヶ所ある「防災調整池」。普段は見慣れている校庭、オフィスやマンションの駐車場、ゴルフ練習場やテニスコートなどが、非常時には一時的なダムの役割を果たし、鶴見川多目的遊水地と同程度、雨水を貯留します。これは、鶴見川の洪水の危険が去ってから、ゆっくりに川に流す「流出抑制施設」として、鶴見川を洪水になりにくくしているものです。

家庭でもできる 「防災調整池」

ここでひとつ、皆様にお願いたいたいことがあります。支川の早洩川では1時間に水位が3.3m上昇するなど、鶴見川流域は短時間で川に水が流入してきます。そこで雨が降ったらお風呂や洗濯の水を貯めておいて、洪水の



危険が去ってから流していただきたいのです。また、庭木やベランダの植物の水やりに雨水を有効活用することもできます。このような家庭での心がけによる治水対策もたくさんありますし、ひとつひとつの量がわずかでも、流域全体を合わせれば、かなりの保水力となるのです。

「調整池」にだけかけよう！

鶴見川を洪水から守る「調整池」に遊びに来ませんか？ 11月27日(日)には、鶴見川源流のそばにある杉谷戸調節地(最寄り駅・横浜線町田駅・淵野辺駅)で、水マス推進サポーターのひとつ「NPO 法人鶴見川源流ネットワーク」が主催する、調整池やせせらぎでの生きもの調査および清掃作業が行われます。参加ご希望の方はFAXで042-797-9270まで。

▼「水マス推進サポーター」って？

鶴見川の応援団であり、水マスタープランの中の「流域貢献活動」を行う、企業、商店、学校、市民団体などの方々です。現在115団体が登録されています。

この広告および鶴見川に関するお問い合わせ

国土交通省 京浜河川事務所
TEL 045-503-4009
地域防災施設 鶴見川流域センター
(JR小机駅から日産スタジアム方面、徒歩6分)
TEL 045-475-1998

川の防災情報

PCサイト <http://www.river.go.jp/>
携帯サイト <http://i.river.go.jp/>

広告